

# 第20回EGI外科治療研究会(Web開催)

日 時 2021年10月9日(土)13:25～

開催方法 「Zoom」を利用致します。

申込方法 別紙参照のうえ参加登録をお願いします。

13:25～13:30 開会のご挨拶 藤原 俊義 先生

発表:10分 討論:4分

※内視鏡外科技術認定取得報告、指導医's eyesセッションは15分、4分

食道	座長:田邊 俊介先生 コメントータ:信久 徹治先生、野間 和広先生		
	13:30～ 13:45	演題1	エネルギーデバイスの特性を熟知し、 左反回神経周囲リンパ節郭清を安全に行う 岡山大学病院 前田 直見 先生
	13:45～ 14:00	演題2	巨大食道脂肪肉腫切除例の経験 広島市立広島市民病院 大倉 友博 先生

胃・十二指腸	座長:石田 道拓先生 コメントータ:尾崎 和秀先生、黒田 新士先生		
	14:00～ 14:15	演題1	ロボット支援下胃切除術の手技を応用した食道癌に対する ロボット支援下腹部リンパ節郭清と胃管作製の工夫 広島市立広島市民病院 石田 道拓 先生
	14:15～ 14:30	演題2	高位の食道残胃吻合(観音開き法)における手技上の工夫 岩国医療センター 渡邊 めぐみ 先生
	14:30～ 14:45	演題3	血管破格を伴う胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術 神戸赤十字病院 河本 慧 先生
	14:45～ 15:00	演題4	技術認定取得後のロボット支援下胃切除術への取り組みと短期成績 四国がんセンター 香川 哲也 先生
	15:00～ 15:15	演題5	導入から3年、ロボット支援下胃切除で判ってきたこと 姫路赤十字病院 松本 祐介 先生

発表:15分 討論:4分

内視鏡外科技術認定取得報告	座長:寺石 文則先生 「技術認定取得者からの報告～今年の技術認定医試験合格者から学ぶ～」		
	15:15～ 15:35	演題1 (胃)	内視鏡外科技術認定医(胃)取得に向けた当院での取り組み 高知医療センター 桂 佑貴 先生
	15:35～ 15:55	演題2 (大腸)	当院における大腸技術認定医取得のための修練内容 高知医療センター 戸嶋 俊明 先生
	15:55～ 16:15	演題3 (大腸)	内視鏡外科技術認定取得報告(大腸) 岡山済生会総合病院 丸山 昌伸 先生

共催:第20回EGI外科治療研究会/科研製薬株式会社

16:15～16:25 10分休憩

eyes 指導医's	座長:黒田 新士先生 「指導医の目～コーチングスキルを学ぶ～」	
	16:25～ 16:45	演題1 指導医の視点から ～上部消化器癌手術～ 香川県立中央病院 田中 則光 先生
	16:45～ 17:05	演題2 当院における技術認定取得を目指した腹腔鏡下肝胆膵手術研修 岡山済生会総合病院 児島 亨 先生

大腸	座長:近藤 喜太先生 コメントータ:丸山 昌伸先生、寺石 文則先生	
	17:05～ 17:20	演題1 腹腔鏡手術全盛期だからこそ学んでほしい 直腸脱Gant-MIWA+Thiersch法の実際 大橋胃腸肛門科外科医院 大橋 勝久 先生
	17:20～ 17:35	演題2 当院における腹腔鏡下大腸切除の再導入の試み 鳥取市立病院 堀 直人 先生
	17:35～ 17:50	演題3 臍ヘルニア に対するintraperitoneal onlay mesh法術後に切除した bulkyなS状結腸癌の腹腔鏡下手術の一例 岩国医療センター 谷口 文崇 先生
	17:50～ 18:05	演題4 骨盤内悪性腫瘍に対する骨盤内臓全摘術の治療成績の検討 高知医療センター 稲田 涼 先生
	18:05～ 18:20	演題5 RALP中の直腸損傷に対するロボット支援下での直腸縫合閉鎖の経験 広島市立広島市民病院 井谷 史嗣 先生

18:30 科研製薬株式会社 情報提供『癒着防止吸収性バリア』

18:50～19:00 10分休憩

特別講演 19:00～20:00

座長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学  
教授 藤原 俊義 先生

演者 『局所進行直腸癌に対する手術手技』  
東京医科歯科大学 消化管外科学分野  
教授 絹笠 祐介 先生

共催:第20回EGI外科治療研究会/科研製薬株式会社

# 事前登録フォーム

Webでの参加登録となります。

下記のURLまたはQRコードより申し込みフォームの必要事項をご入力ください。

<https://bit.ly/3morZvj>



※お申込み完了後、ご登録のアドレスに登録完了通知メールが自動転送されます。当日はメール文書中、[ここをクリックして参加](#)をクリックしてご参加ください。

開催1週間前、1日前、1時間前にリマインドメールが届きます。

※登録完了通知のメールが届かない場合、メールアドレスが間違っている可能性があります。

※座長、コメンテータ、ご発表の先生方は、ご発表セッションの前にホストPCにてパネリスト(発表者モード)に切り替えを致します。

・docomo、au、softbank等のアドレスからの登録は正常に処理がされません。PCアドレスでの登録をお願いいたします。

・本会は「Zoomウェビナー」を使用します。  
当日はネット環境の整った場所でのご視聴をお願いします。

・PC端末の場合ブラウザからの視聴も可能です。  
タブレットの場合は事前にアプリのダウンロードをお願いします。

・当日のご質問はチャットではなくQ&Aからお願いします。  
※音声でのご質問の場合はコントロールより『手を挙げる』をクリック下さい。  
(ホストPCにてミュート解除を行います)

## 【お問い合わせ】

科研製薬株式会社

後藤 大介 E-mail:[goto\\_daisuke@kaken.co.jp](mailto:goto_daisuke@kaken.co.jp)

TEL:070-2154-8442

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学

浦上 裕香 E-mail:[urakami@md.okayama-u.ac.jp](mailto:urakami@md.okayama-u.ac.jp)

TEL:086-235-7257(医局直通)

\*\*2021年3月改訂(第14版)  
\*2017年11月改訂(第13版)

癒着防止吸収性バリア

# セラムフィルム

ヒアルロン酸ナトリウム／

カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

高度管理医療機器 保険適用

承認番号：20900EZY00790000  
承認年月日：1997年8月26日  
再審査結果公表年月：2015年3月

**【禁忌・禁止】**

- \* 1. 適用対象(患者)
  - (1) 貼付部位に感染が認められる患者に使用しないこと。[膿瘍、腹膜炎等が発現するおそれがある。]
  - (2) 本材の成分に対し過敏症の既往歴のある患者に使用しないこと。
- \* 2. 使用方法
  - (1) 再使用禁止。[本材は滅菌済み製品であり、1回限りの使用である。]
  - (2) 本材の腸吻合部縫合線上へのラッピングは行わないこと。[本材を吻合部にラッピングした患者群で吻合部縫合不全、膿瘍、瘻孔、腹膜炎、敗血症の発生率が高かったとの報告がある。]

**形状・構造及び原理等**

**1. 形状・構造**

本材は生体吸収性材料であり、原材料としてヒアルロン酸ナトリウム及びカルボキシメチルセルロースを2：1の割合(重量比)で含有する。本材は、半透明のフィルム状である。

**2. 原理**

- (1) 本材は、物理的バリアとして癒着防止効果を発揮する。
- (2) ラットを用いた試験では、本材は、適用後およそ24～48時間以内で水和したゲル状になり、およそ7日間貼付した組織に留まり、体内に吸収された後は、28日以内に体外へ排出される。

**\*3. 種類**

本材には以下の種類がある。

包装種類	フィルム1枚あたり		1袋あたり フィルム合計面積
	寸法	面積	
1枚入り1袋	12.7cm×14.7cm	186.69cm <sup>2</sup>	-
2枚入り1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm <sup>2</sup>	186.69cm <sup>2</sup>
4枚入り1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm <sup>2</sup>	373.38cm <sup>2</sup>
4枚入り1袋	7.35cm×6.35cm	46.67cm <sup>2</sup>	186.69cm <sup>2</sup>

**使用目的又は効果**

術後の癒着の軽減[腹部又は骨盤腔の手術患者に対して、腹部切開創下、腹膜損傷部位、または子宮及び付属器損傷部位に貼付し、術後癒着の頻度、範囲、程度を軽減する。]

**使用方法等**

1. 本材は、腹部又は骨盤腔の手術が終了し、腹部又は骨盤腔を閉じる直前に適用すること。
  2. 本材は、必要に応じてフィルムをカットし、使用前、乾いた状態にしておくこと。[本材は、湿性組織への付着性が高いため、使用前に湿らすと貼付できなくなる。]また、本材適用に使用する器具は出来るだけ乾いた状態にしておくこと。
  3. 余分な水分は、本材が組織と付着するのを妨げるので、使用部位でできるだけ乾いた状態にしてから使用すること。
  4. 切開部及び関連する外科的損傷部が、充分に覆われるよう貼付すること。
  5. 本材を適用する際、他の組織に付着しないよう適用部位に直接貼付すること。適用部位以外の組織に付着した場合は、生理食塩液等を用いて穏やかに剥がすこともできる。
  6. 2枚以上使用する場合は、損傷部が完全にそして連続して覆われるように充分重ねて使用すること。
  7. 本材は、縫合して使用しないこと。[使用方法等に関連する使用上の注意]
- \*1. 本材の取扱いは、乾いた器具や手袋を用いるなど慎重に行うこと。  
\*2. いったん本材を組織に貼付した後は、本材を動かさないこと。  
\*3. 本材は、水分に接触すると著しく操作性が低下し、適切に貼付を行うことができなくなるため、特に腹腔鏡下手術で使用する場合は、腹腔鏡下手術及び本材使用の十分な経験を有する医師が使用すること。  
\*4. ビニール(内包の透明部分)は、患者体内への接触適用を意図していないので、生体には接触しないよう注意すること。  
\*5. 以下のような手順で使用すること。
- 1) 適用直前にポリエステルホイルを開封し、滅菌済の内包を、清潔区域に取り出す。
  - 2) 内包から、本材の入ったホルダーを取り出す。
  - 3) 本材をホルダーから取り出す前に、乾いたハサミで貼付する適用部の大きさと形に切断する。
  - 4) ホルダーから本材を1～2cm引き出し、それをリドとして適用組織に貼付する。
  - 5) 必要に応じて、本材の入ったホルダーを少し折り曲げ弧状にし、腹部・骨盤腔に挿入し易くする。
  - 6) 組織又は臓器の所定の部位にしっかりと接着するように乾いた手袋又は、ガーゼを用いて本材を穏やかに押しえながら、ホルダーより本材を少しずつ取り出す。
  - 7) 適用後は、ホルダーを廃棄する。
  - 8) 貼付が終了したら、通常の手法により閉腹する。

**使用上の注意**

**1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)**

腹腔内に感染が認められる患者[腹腔内に感染または穿孔のある患者において膿瘍、腹膜炎等の報告がある。]

**2. 重要な基本的注意**

- \* (1) 重度の薬物アレルギーの患者に本材を使用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立されていない。
- (2) 本材使用後に、疼痛、腹部膨満、及び発熱の臨床症状を伴う異物反応が報告されている。このような症状を起こした場合には、適切な措置を施すこと。
- (3) 本材の使用後に炎症性反応、膿瘍等が報告されているので、治療上の有益性を勘案した上で使用すること。
- \* (4) 他の癒着防止材との併用で、本材を適用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立されていない。
- \* (5) 本材はガンマ線滅菌されている。開封後再滅菌して使用しないこと。また、使用前に本材の包装が開封されたか、破損している際は使用しないこと。

**3. 不具合・有害事象**

**使用成績調査終了時(実施期間:1998年4月1日～2000年8月25日):**  
収集症例数724例中、有害事象報告は8例(1.1%)10件であった。その主なものは、発熱4件(0.6%)、めまい、頭痛、便秘症、心窩部痛及び腹腔内出血が各1件(0.1%)であった。

**(1) 重大な有害事象**

1) 創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症：創感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症(いずれも頻度不明<sup>\*)</sup>)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

2) ショック：ショック(頻度不明<sup>\*)</sup>)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

**(2) その他の有害事象**

下記のような症状があらわれることがあるので、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

	0.2～1%未満	0.2%未満	頻度不明 <sup>*)</sup>
* 腹部事象		腹腔内出血	イレウス、浮腫、癒着、創哆開、吻合部漏出、瘻孔、腹腔内液貯留
その他	発熱	めまい、頭痛、便秘症、心窩部痛	アレルギー反応、肝機能検査値異常、皮疹、腹痛、下痢

注) 自発報告により認められている有害事象のため、頻度不明。

**4. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用**

妊娠中の使用に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には使用しないことが望ましい。

**\*5. その他の注意**

海外のルトロステクティブ研究において、特に、極めて特殊で限定されたテラリング手術を要した卵巣癌、原発性腹膜癌又は卵管癌患者で本材を使用した場合に、腹腔内液貯留、膿瘍の発現リスクが高かったとの報告がある。

**保管方法及び有効期間等**

1. 保管方法：室温保存
2. 有効期間：3年

2021A



発売元  
**研製薬株式会社**  
東京都文京区本駒込2丁目28-8

\*\*製造販売元(輸入)

**バクスター株式会社**  
東京都中央区晴海一丁目8番10号

資料請求先：〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8 研製薬株式会社 医薬品情報サービス室